事業報告書（公開用）　　令和元年度提案型協働事業

事業名称	紙芝居を活かした消費者被害防止による安心安全まちづくり
団体名・代表者	認知症予防教室一輪会　　代表　田中　孝史
協働の相手方	地域包括支援課・消費生活センター

目的	地域（朝日校区）の小規模公民館等に集っていただき、特に高齢者に対する消費者被害を防ぐ手法の一つとして紙芝居（題材は消費者被害）５作品を鑑賞していただき、消費者被害を意識することで、結果的には安心安全まちづくりに寄与する。
内容	消費者被害対策として企画・制作した紙芝居を楽しく鑑賞していただく。後半には会場の雰囲気を盛り上げる意味から、全員でキーボード生演奏により昭和歌謡を、合唱参加者にはシール「でんわのむこうは誰」と消費生活センターからの資料を配布した。
事業経過	開催中には、添付記事のように神戸新聞・読売新聞から取材を受け、関心の深さを痛感。別紙のとおり、約４ヶ月の間に１，０２７名のアンケートをいただきました。今回制作した受話器に貼るシール「でんわのむこうは誰」が予想以上に好評だった。
事業の効果	今回の予定は、１５会場でしたが、クチコミ効果からか、地域サロン３７会場、福祉施設６施設で鑑賞していただく結果となりました。姫路市以外からも嬉しい要望の声がありました。
今後の展望	もっと多くの高齢者の方たちに啓蒙・広報活動をして、消費者被害防止の種まきに努めていきたいと思います。

【実施団体の事業総括・感想等】

今回は、提案型協働事業に採択されまして、アンケート集計結果から見ても大正解だったと思いますとともに、事業を終了するのではなく、継続事業と位置付けてボランティア活動の中に取り組んでいきます。

【協働の相手となった所管課の感想等】　※実施団体は記入しないでください

（地域包括支援課）
高齢者にとって馴染みやすい形で「紙芝居」（回想法）を活用し、「消費者被害予防」に対しての普及啓発を行うという視点と取り組みは有効であったと考える。
（消費生活センター）
「紙芝居」を活かした啓発は、高齢者にとって親しみやすく、また読み手と参加者の距離が近いので、参加者の反応を見ながら実施することができ、たいへん効果的な啓発方法と考えられます。
近年、高齢者の消費者被害は増加傾向にあり、被害防止を目的としたこのような取り組みは、非常に重要です。
今後も継続して実施していただき、さらに新たな担い手を育成するなど活動の幅を広げていただきたいと思います。